

いただいたご質問等と区の考え方

令和3年度 第2回生野区政会議(まちの未来部会)

番号	発言者	ご質問等	資料ページ	回答
1	永松委員	生野区では、以前から多文化共生を推している印象がある。生野というエリアの経歴と今を考えると、とても重要かつ効果的なアピールポイントだと思う。その視点の延長線上で『インクルーシブな街』としてのアピールもぜひ考えていただきたいと思っている。 大阪市ではインクルーシブ教育を積極的に推し進めています。特に生野区内の小中学校はその取り組みに熱心な学校が多いのではないかと。私も区内の小中学校に子どもを通わせているが、先生方がそれぞれの障害や事情への配慮と同じ場所でそれぞれが学んでいくための取り組みは、とてもきめ細かく素晴らしいものだと思う。また、周りの保護者の受け入れもとても自然体で、古くから地域に共生文化が根付いていると感じている。 ですが、あまりに地域に当たり前のものとして根付きすぎていて、その魅力や良い意味での特異さに住民自身が気づいていないのでは？と思う。PRポイントとして掲げていくことで、生野区外だけでなく、住民自身も街の誇りとしていけるのではないかと。	—	生野区では、生野のまちが子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまちをめざしております。 そのためには、委員にご提案いただきましたとおり、生野区は多様性を受け入れ包み込む、懐の深いまちとして、今後とも引きつづき、生野区の持つ多様な地域資源を発掘し、区民のまちに対する愛着や誇りが高まるような取組や区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、区に訪れ、住んでもらえるようなシティプロモーションを引き続き行ってまいります。
2	永松委員	2022年度にいくつかの小中学校が統合されるにあたり、制服/標準服の見直しがあった。私自身も、その中の一校の標準服を決める部会に参加し、ほかの委員と、『LGBTQへの配慮だけでなく、すべての子どもたちや家庭が自分の体調で衣服を選べるように』との視点で話を重ね、ユニセックスな制服を採用するに至った。しかしながら、新しい標準服/制服のデザイン周知において、そのコンセプトが一切保護者に伝えられていないことに大変残念に思っている。 どれだけよいものを時間をかけて選択しても、その理由が伝わらなければ意味がない。部会の中では、この件についての広報の必要性についての話をさせていただいたし、標準服を提供するメーカー側も教育プログラムがあるとの話だったが、それが使われることはなかったようだ。 コロナ禍で時間的に難しかったのかもしれないが、それでもPRの仕方はいくらかもあつたはず。前回の全体会では、街の魅力のPRという視点からの意見が出ていたが、まず、こういうひとつずつの機会を活かせていない点が致命的だと感じる。この件だけでなく、すべての取り組みにかかわる担当者がそれを広報に結び付ける意識改革が必要で、さらに全体に向けてのスムーズな広報につなげる内部システムについての強化もお願いしたいと思う。	—	学校再編に伴う標準服の見直しにつきましては、それぞれの中学校区学校適正配置検討会議(以下「検討会議」という。)、もしくは、同検討会議標準服等専門部会において、検討会議委員の皆さまと意見交換し仕様等について検討を進めてまいりました。 委員にご参加いただいた生野中学校区の標準服等専門部会におきましても、機能性、視認性等の安全面に加えて、LGBTQへの配慮だけでなく、全ての児童生徒やご家庭がご自身の意志で標準服を選択できるようにとご意見をいただき、事業者募集の際にも下衣の仕様に関して「ユニセックスデザインとすること」を加えるなど、鋭意進めてきたところでございます。 また、標準服等の事業者選定過程におきましても、各小中学校で新しい標準服等のサンプル展示及びアンケートを行った際、保護者の方に対し提案いただいた各事業者のコンセプトやアピールポイントをお示し、新しい学校の標準服はLGBTQに配慮したものであることを紹介させていただいたところでございます。 委員からのご指摘のように、保護者の皆さまにコンセプト等が十分に伝わっていないという状況につきましては真摯に受け止め、関係各所との連携を図りながら、全体に向けてスムーズな広報を行うように努めてまいります。